

団体名：フードバンク岡山

代表者名：糸山 智栄

事業規模簿：0万円 ボランティアスタッフ数…0人

施設配布先：児童養護施設、障がい者支援施設、ホームレス支援

活動地域：岡山県全域

住所：岡山県岡山市中区兼基 107-2 TEL：086-280-3233/080-4263-2007

事業概要

2年ほど前より、廃棄物工学研究所を主体にフードバンクに関する農水省補助事業費を得て始まった。

当初は、シンポジウムや各福祉施設へのフードバンクに関する意識調査、県内での啓発活動、各フードバンク団体への視察・招待をし、勉強会を重ねた。

その後、準備会を設立し、事業内容、活動方針を検討し、2012年11/15(木)フードバンク岡山を設立した。

ポイント

【県内全域をカバーする効率の良い拠点化】

県内に3箇所の倉庫（仮拠点）を置いて、各拠点での食品の授受、配送を行う予定。各拠点での、小口の食品は地産地消を目指し、大口の食品は3箇所の拠点に振り分ける。

各拠点間における食品の移動は、既存のメンバーの往復便（牛乳配達や通勤など）に乗せ、既存の流れの中で運搬が可能な仕組みを考え、余計な経費を発生させない。

【福祉分野の視点】

岡山フードバンクの理事・会員は、障がい者福祉、DV支援、ホームレス支援など、施設関係者がメンバーとして、多数関わっている。「どこに対して?」、「なぜ提供するのか?」というフードバンク食品の必要先や必要性、福祉分野から見た提供意義を把握できている。

取り組みの経緯

2012年2月27日に平成23年度農林水産省補助事業フードバンク活動推進事業として「フードバンクを知る、学ぶ」と題したセミナーを開催（廃棄物工学研究所）。

それをきっかけに現在の中心メンバーである団体で「フードバンク自主勉強会」を定期開催し、同年3月26日には「岡山でフードバンクをはじめよう～あいあいねっと（広島）原田佳子さんを困んで～」を開催。4月27日より試験的な食品提供を開始する。

同年7月には平成24年度農林水産省補助事業フードバンク活動推進事業の採択を受け、県内の有識者を交えた「フードバンク活動推進検討会」を開催。ここでは具体的にフードバンク岡山の立ち上げに向けて、産官学の意見を聞きながら調整を行った。

その間に広島のあいあいねっとへ視察を行い、11月15日に任意団体でフードバンク岡山を設立した。

活動方針

【フットワークの軽い・集荷、配送】

メンバーは農家と福祉分野の職員が中心であり、配送ルートは、それぞれの通勤ルートや仕事のルートを利用して県内全域に出荷・配送をしている。

そのため、メンバーごとの負担は少なく、あくまでも施設での仕事をベースとし、プラスアルファでのフードバンク活動を基本スタンスとしている。

また、今年4月から11月の間に小口で100件程の寄贈を受け、約200件の配布事例がある。

タイトル、小見出し：MS ゴシック 16 ポイント

文章：MS 明朝 10 ポイント、英数字 century 10 ポイント

活動事例

異業種交流会・法人会でのフードバンク啓発活動により中小企業との繋がりが広がる。寄贈品に関する問い合わせや個人商店からの小口の提供が続いている。

事務局中心メンバーの本業が農家で、その他農家との繋がりにより、農産物を引き受けることが多い。食品の情報共有は、フェイスブックでしているため、素早い対応ができています。運搬は乗用車、軽トラ、原付バイクでの運搬をしており、臨機応変に動ける体制ができています。

提携食品企業

おかやまコープ（店舗）、藤徳物産（惣菜）、コロンバージュ（パン）、個人農家、麵処にっこり（うどん）

支援の視点

個人の方へのサポートは行うが、あくまでも行政、プロの支援者・支援団体等を通じて食品提供を行い、自立支援のためにより効率的に利用されるよう心掛けている。その為に、行政窓口への連絡方法や対応マニュアルを整備している。

ネットワークの視点

2012 年度は、農林水産省の補助事業を取得している。その結果、各フードバンク団体との繋がりができ、関係性づくり・情報共有を積極的に行なっている。

成果と課題

ホームヘルパーのネットワークを活用できないか考えている。理由としては、高齢者の貧困が挙げられる。年金生活をしている方の表面化されにくい生活困窮度合いを早期に発見し、ケアマネージャーを通してフードバンクと連携することで、個別支援計画を踏まえた総合的なサポート体制が築ける可能性が高いためである。

当初から岡山県全域をカバーする視野があり、来年度以降は中国地域をカバーするためのリソースやネットワークづくりを検討していきたい。